

【概 要】

1. 実施概要

名 称	イングリッシュ・サマーキャンプ（通称＝E S C那須）
位 置 付 け	区立中学校夏季林間学校に「英語」という要素を加えて行う校外宿泊事業
日 程	平成22年7月21日（水）事業開始 平成22年8月8日（日）事業完了 1ラウンド2泊3日、9ラウンドで5校実施
宿 泊 施 設	東京都北区立那須高原学園（しらかば荘） 〒325-0301 栃木県那須郡那須町湯本206番地 TEL 0287-76-1471 FAX 0287-76-1399
対 象	北区立中学校5校の1、2年生 1,382名（在籍者数）
参加外国人	協力大学の外国人留学生 延べ179名
形 態	生徒7名と外国人留学生（キャプテン）1名でグループをつくり、グループごとに様々な体験活動に共に取り組む。
主 催	東京都北区教育委員会
運 営	北区E S C那須運営委員会
運 営 委 託	財団法人 日本児童教育振興財団

2. 目 的

中学1、2年生が、教室から離れた豊かな自然の中で、外国人留学生とふれあい、協力し合って生活体験や自然体験を重ねることで、楽しみながら異文化理解を深め、国際化に対応する基礎的・実践的コミュニケーション能力を高める。

- ・ 国や地域による習慣や生活様式の違いに触れ、異なる文化を持つ人々への理解を深める。
- ・ 英語が外国の人々との「コミュニケーション手段」であることに気付く。
- ・ 英語で話すことの楽しさを体感し、英語を学ぶことへの意欲を持つ。

【事業内容】

3. プログラム内容

第1日目

《ハイキング》

- ・ 八幡つつじ散策路やつつじ吊橋などのハイキングを実施する。

《インターナショナル・カルチュラル・パフォーマンスの練習》

- ・ キャプテンの母国の歌や踊り、Chants 等を、留学生を中心にグループごとに分かれ、練習をする。（2日目夜に発表する。）
- ・ キャプテンが英語で生徒に指導する。1日目の練習時間の他にも自由時間などを使って練習に取り組む。

- ・ 実施場所＝学園の中庭、廊下、ピロティなど。

《留学生紹介》 「It' s a Small World」

- ・ 生徒はキャプテンに、インタビューシートを利用して、いろいろな質問をして情報を集める。(ex.国籍・家族・趣味・好きな食べ物他)
- ・ 自分たちのグループの留学生(=キャプテン)を、他の生徒に紹介する。
- ・ 発表後は、感謝の気持ちを込めて、キャプテンのTシャツに寄せ書きをする。

第2日目

《選択プログラム》

- ・ グループごとに好きなプログラムを選んで参加する。

※ 茶臼岳(那須岳)登山

茶臼岳山頂を目指してのハイキング。 *峠の茶屋→山頂

※ 剣桂ハイキング

阿武隈川の源流に沿ってのハイキング。 *阿武隈川沿い→剣桂神社

《キャンプファイヤー》

- ・ 日本や外国のキャンプソングをうたう。
テーマソング「It' s a Small World」
- ・ 世界各国から集まった留学生が、トーチを手に自国の言葉で挨拶をする。
- ・ インストラクターによる、トーチアトラクション。

《インターナショナル・カルチュラル・パフォーマンス》

- ・ キャプテンの母国の歌や踊り、Chants 等をグループごとに練習したものを、班ごとにみんなの前で発表する。(学年ごと、クラスごとなど分かれて発表)

第3日目

《さよならパーティー》 「Farewell Assembly」

- ・ キャンプ中に覚えた歌やChants で、お世話になった人たちへ感謝の気持ちを表す。
- ・ 2日目に行った、インターナショナル・カルチュラル・パフォーマンスで最優秀賞を取った生徒が、全生徒の前で発表を行う。

4. コミュニケーション ツール

生徒と留学生が、英語でコミュニケーションを取りやすくするための工夫として次の3点を取り入れている。

《ストラップ》

- ・ キャンプネームを決め名札を作り、ストラップに入れて全員が首から下げる。
- ・ キャンプ中は互いにキャンプネームで呼び合う。(生徒、留学生、教員、インストラクター等 全ての参加者)

《CAMPER 'S HANDBOOK》

- ・ キャンプ中に使える簡単な英語が載ったハンドブック。

- ・ ストラップに入れて、いつでも取り出して確認できる。
- ・ キャンプ中に役立つフレーズが記載されている。レベルアップ版も記載された。
- ・ キャンプ中に使う歌や単語も記載されている。

《チャットルーム》

- ・ 生徒と留学生が自由にコミュニケーションを取るための約60畳の洋室。
- ・ 1日目の自由時間に1時間半程度オープンする。
(個人での自由参加、二日目に実施するかは各学校ごとに選択)
- ・ 囲碁将棋、オセロ、チェス、トランプ、けん玉などのゲームもあり、
グループにとらわれず、好きなように遊べる。辞書、筆記用具も設置。
- ・ 車座になったり、寝転んだり、使い方は自由。

【運営組織】

5. 組織体制

北区立中学校校長会の内部組織として「北区E S C那須運営委員会」を設置し、北区教育委員会事務局との協議のもと企画運営に当たる。

キャンプの活動プログラムの具体的計画や現場での進行管理、留学生管理(募集、採用、研修、現場でのケア)については、「日本児童教育振興財団」に業務委託する。

《E S C那須運営委員会》

- ・ 委員長(中学校長)、副委員長(中学校長)、委員(参加中学校教諭・養護教諭)
- ・ 事業目的の設置、事業要項の作成に関することを担う。

《教育委員会事務局》

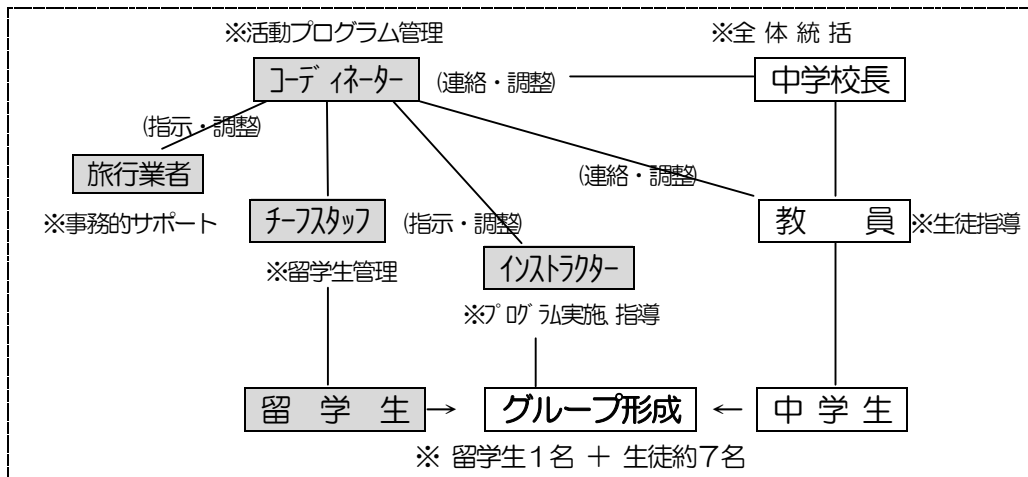
- ・ 東京都北区教育委員会事務局学校支援課
- ・ 事業統括、調整管理に関することを担う。

《日本児童教育振興財団》

- ・ 東京都千代田区猿楽町 2-5-4 OGAビル 理事長 相賀 昌宏
- ・ 活動プログラムの計画作成、事前準備、進行管理等の運営実務を担う。
- ・ スタッフ(インストラクター・留学生等)の確保及び管理監督に関することを担う。

6. スタッフ体制

那須の事業現場でキャンプを運営するスタッフ等の体制



《キャンプスタッフ》

*コーディネーター (1名/1ラウンド)

- ・ キャンプ中の活動プログラムを管理。中学校、教育委員会事務局、留学生、各スタッフとの調整をはかり円滑な運営を進める。
- ・ 日本児童教育振興財団職員。

*インストラクター (約5~7名/1ラウンド)

- ・ コーディネーターの指示のもと、活動プログラムの進行を担当する。
- ・ 活動プログラムを行う際は、各グループ(生徒・留学生)を直接指導する。
- ・ 日本児童教育振興財団に属し、野外活動、レクリエーションの専門知識を身に付けている者。

*チーフスタッフ (日本人1名、外国人1名/1ラウンド)

- ・ コーディネーターの指示のもと、留学生をまとめ必要な指示を出す。
- ・ キャンプ中、様々な角度から留学生のケアに当たる。
- ・ 現場の状況に応じて、生徒と留学生のコミュニケーションを助ける。
- ・ 日本児童教育振興財団に属し、日本語と英語が堪能で、留学生をまとめる力のある者。

*外国人留学生(キャプテン) (16~31名/1ラウンド)

- ・ キャンプ実施中は、外国人留学生をキャプテンと呼ぶ。
- ・ 生徒約7名に1名の割合でグループに入り、生徒と一緒に活動する。
- ・ 原則として、生徒と英語でコミュニケーションを取る。
- ・ 協力大学(別添一覧表参照)に通う外国人留学生で、英語が堪能であり、生徒と楽しく野外活動に取り組み、積極的に国際交流を図る意欲がある者。(国籍不問)

*旅行者(添乗員)

- ・ バスの配車、弁当の手配、参加人員の把握等運営連絡事務を担当する。
- ・ 旅行者に属し、英語が堪能な者。

【外国人留学生】

7. 役割及び参加要件等

年齢的にも中学生に近い外国人留学生(大学生)が、生活体験や自然体験のパートナーとしてキャンプに参加することで、生徒が楽しく自然に英語に親しめる環境を作り、異文化理解が深まるよう活動を助ける。

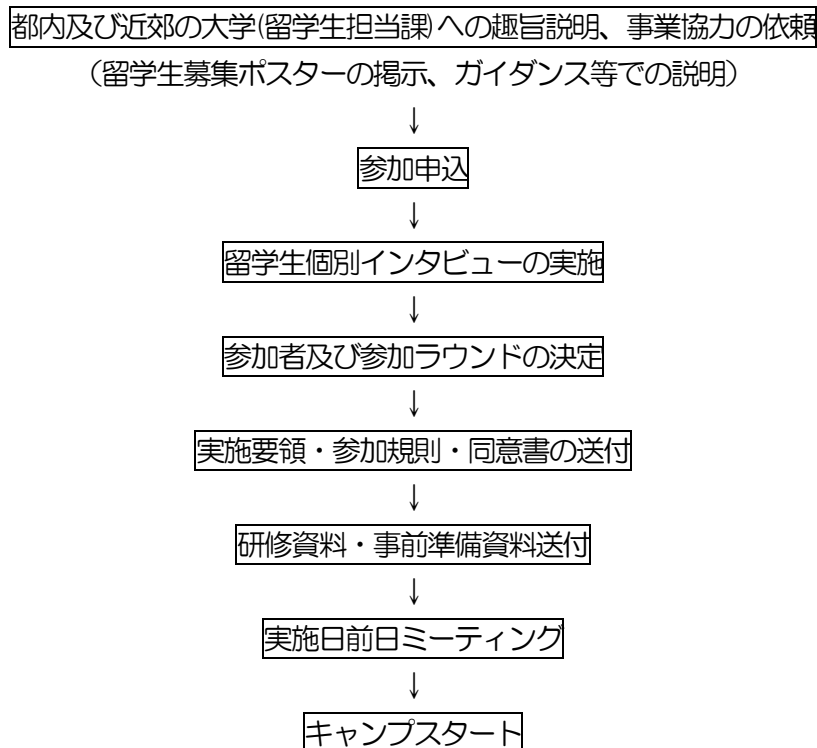
《役割》

- ・ 生徒に積極的に話しかけ、基礎的、実践的コミュニケーション能力の向上をサポートする。
- ・ 表情やジェスチャーを交え、気負わない接し方をする。(キャンプでは英語でのコミュニケーションを基本とするが、日本語禁止ではない。)
- ・ 折に触れ、母国の生活習慣や文化について生徒たちに話をする。

《参加要件》

- ・ 当該事業の協力大学の学生であること。
- ・ 英語が堪能であること。(国籍は問わない)
- ・ 野外活動の経験があること。もしくは取り組む意欲があること。
- ・ 協調性を持って中学生と活動ができること。

《参加留学生決定までの流れ》



8. 事前レクチャー

個別インタビュー実施後、参加ラウンドが決定した留学生に、事業概要及び参加説明書を送付する。また、実施日前日に前泊ミーティングを行う。

《資料内容》

- ・ 事業目的や意義、運営体制の仕組み等について
(当該キャンプが、中学生の公教育の場、学習の場であることの説明)
- ・ キャンプカリキュラム(プログラム)の概要、趣旨について
(2泊3日のスケジュールと、留学生の拘束時間や現地での生活環境)
- ・ 生徒たちと接する上でのルールについて
(平等性、生徒前での禁煙、携帯電話使用のマナー、服装、団体行動等)
- ・ 生活習慣や慣習の相違について
(宗教、食事=ベジタリアンへの対応等)
- ・ キャンプでの役割について
(バス内でのレクリエーション、英語の歌・ゲーム、キャンパーズハンドブックの使用方法)
- ・ インターナショナル・カルチュラル・パフォーマンスの準備について
(2日目の夜にグループごとに発表するキャプテンの母国の歌や踊り Chants などの事前準備)

《前泊ミーティング》

キャンプ前日のPM7:00から、赤羽会館または宿泊するホテルにてミーティングを行う。

- ・ キャンプにおける留学生の役割確認
- ・ キャンプの諸注意の確認
- ・ 留学生同士の自己紹介
- ・ キャンプソングやアクティビティの練習

※ミーティング終了後、区内のホテルに宿泊する。当日の朝、迎えにきたバスで留学生全員揃って中学校へ向かい生徒たちと合流する。

9. 留学生出身国及び協力大学

《留学生の募集と参加の状況》

2010年4月 大学へ協力要請(ポスターの掲示、チラシ配布)

2010年6月 インタビュー(面接)実施

※応募総数 503名 ※インタビュー数 377名

2010年7月～8月 キャンプ実施

※キャンプ参加者 延べ179名 (62の国と地域・22大学)

《国別参加状況》 計62の国と地域(参加者の多い順)

国籍	参加者数	国籍	参加者数	国籍	参加者数
アメリカ	14	パキスタン	3	キルギス	1
インドネシア	13	イギリス	2	スペイン	1
中国	11	ウガンダ	2	スリランカ	1
タイ	9	オーストリア	2	チュニジア	1
フィリピン	6	カザフスタン	2	デンマーク	1
マレーシア	6	カナダ	2	ナイジェリア	1
インド	5	カンボジア	2	ニカラグア	1
ドイツ	5	タンザニア	2	ノルウェイ	1
バングラデシュ	5	ネパール	2	フィジー	1
ブラジル	5	ハンガリー	2	フランス	1
ベトナム	5	ポルトガル	2	ベラルーシ	1
ウクライナ	4	メキシコ	2	ペルー	1
ウズベキスタン	4	ルーマニア	2	ボリビア	1
ガーナ	4	アルゼンチン	1	マセドニア	1
台湾	4	アルメニア	1	モザンビーク	1
ロシア	4	イスラエル	1	モルドバ	1
韓国	3	イタリア	1	モンゴル	1
コロンビア	3	イラク	1	ヨルダン	1
シンガポール	3	エジプト	1	ラトビア	1
スロベニア	3	エルサルバドル	1	レバノン	1
ニュージーランド	3	オランダ	1		

《大学別参加状況》 計22大学(参加者の多い順)

大学名	参加者数	大学名	参加者数	大学名	参加者数
東京大学	42	一橋大学	5	東北大学	2
早稲田大学	32	東京医科歯科大学	5	京都大学	1
東京外国語大学	18	東京農工大学	4	国学院大学	1
筑波大学	15	慶応大学	4	国際基督教大学(ICU)	1
東京工業大学	9	埼玉大学	3	法政大学	1
千葉大学	8	電気通信大学	3	立命館アジア太平洋大学	1
青山学院大学	7	立教大学	3		
横浜国立大学	6	東海大学	3		

【実績報告】

10. 参加人員及びプログラム選択状況

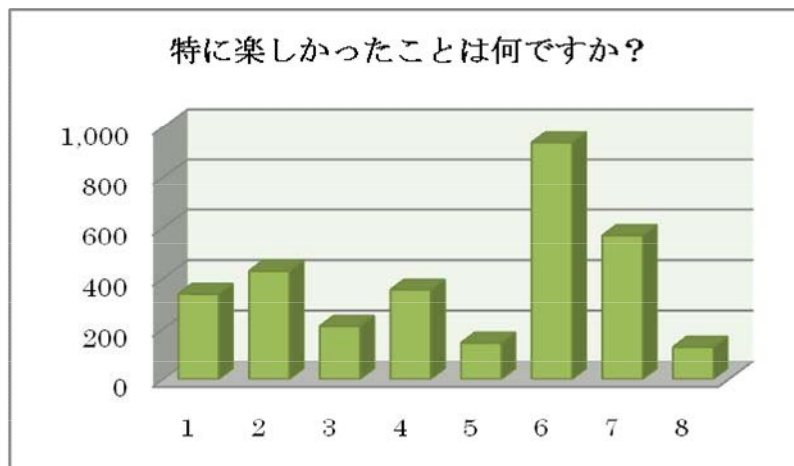
ラウンド	実施日	中学校名	参加生徒数	参加留学生数	選択プログラム 実施状況			ナイトプログラム 実施状況	
					茶臼岳	剣 桂	雨天 プログラム	キャンプ ファイアー	キャンドル ファイアー
R1	7月21日 ～23日	稲付中学校 (第2学年)	118	17	○			○	
R2	7月23日 ～25日	稲付中学校 (第1学年)	115	17		○			○
R3	7月25日 ～27日	滝野川紅葉中学校	180	28	○			○	
R4	7月27日 ～29日	桐ヶ丘中学校 (第1学年)	115	17		○			○
R5	7月29日 ～31日	桐ヶ丘中学校 (第2学年)	126	17	○				○
R6	7月31日 ～8月2日	十条富士見中学校 (第1学年)	107	16	○			○	
R7	8月2日 ～4日	十条富士見中学校 (第2学年)	133	21	○			○	
R8	8月4日 ～6日	明桜中学校 (第1学年)	162	25		○		○	
R9	8月6日 ～8日	明桜中学校 (第2学年)	141	21	○			○	
合計			1,197	179					

※ 雨天プログラムでは、館内オリエンテーリングと食堂でのスポーツゲームを実施する。
(ただし、今年度は実施なし。)

11. アンケート結果

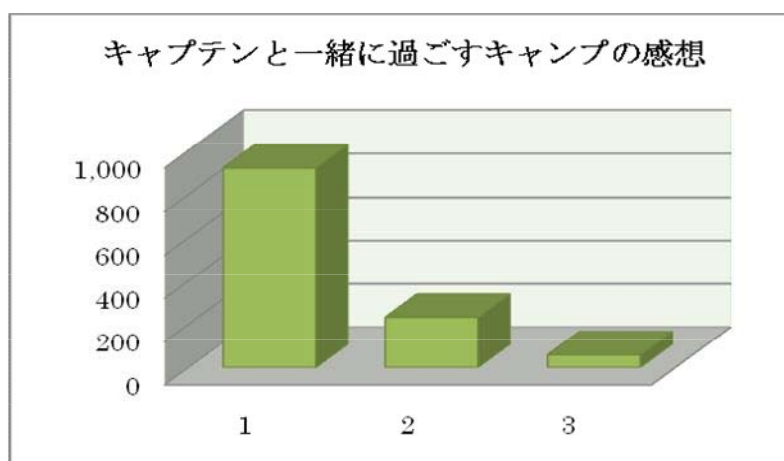
《生徒アンケート》平成22年度 ・参加生徒数1,197人 ・回答数1,161人
 《回答率96.99%》(1年生627人/2年生534人、男子607人/女子554人)

問1. サマーキャンプで特に楽しかったことは何ですか？(複数回答)



1. 1日目の散策(つつじ吊橋等)	339人	29.2%
2. チャットルーム	428人	36.9%
3. ナイトプログラム(留学生紹介)	210人	18.1%
4. ナイトプログラム(インターナショナルナイト)	355人	30.6%
5. 茶臼岳登山	145人	12.5%
6. 剣桂ハイキング	938人	80.8%
7. 室内オリエンテーリング	570人	49.1%
8. その他	129人	11.1%

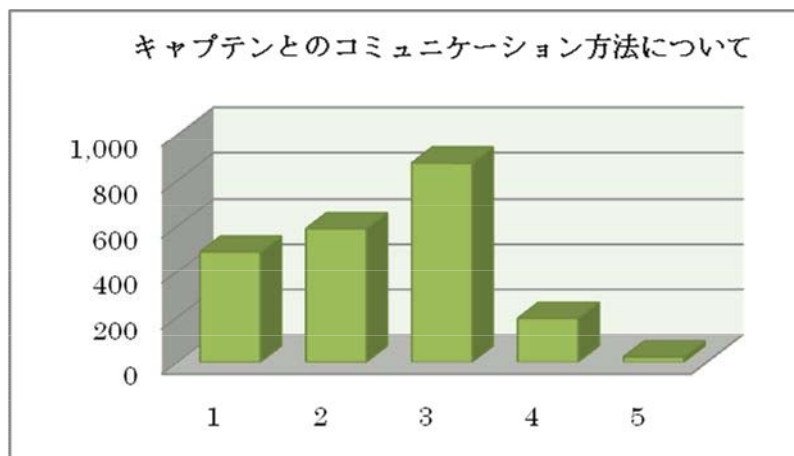
問2. 外国人のキャプテンと一緒に過ごすサマーキャンプをどう思いますか？



1. 外国人と身近にふれ合えて、楽しいと思う。	920人	79.2%
2. 生徒だけでの活動の方が楽しいと思う。	233人	20.1%
3. その他	59人	5.1%

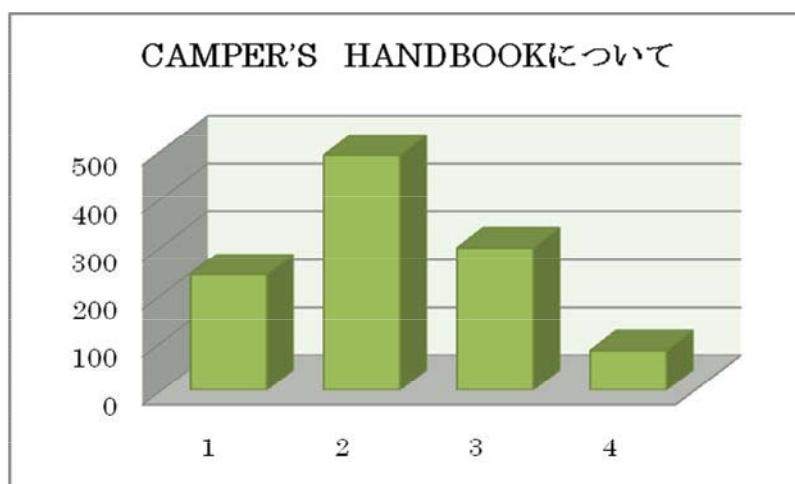
※その他には、「両方」、「どちらでもない」、「時と場合による」などの意見が寄せられました。

問3. あなたはどのようにキャプテンとコミュニケーションをとりましたか？（複数回答）



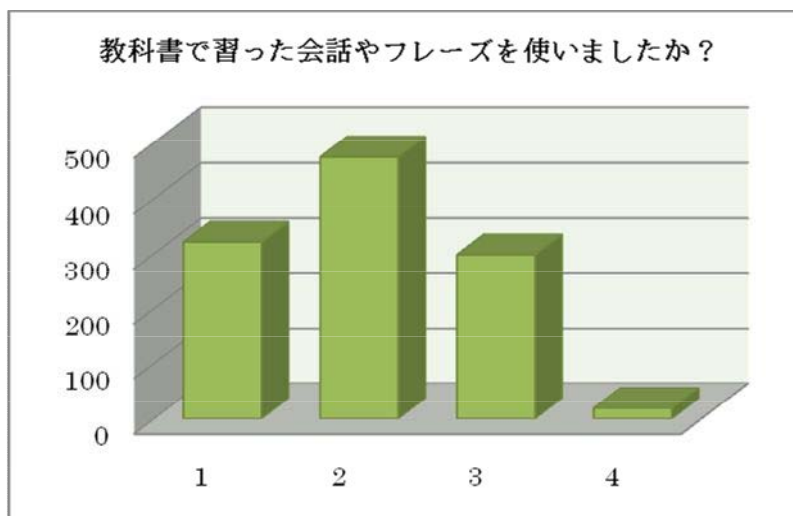
- | | | |
|-----------------------------------|------|-------|
| 1. 英語で話した。 | 488人 | 42.0% |
| 2. 表情やジェスチャーで気持ちを伝えた。 | 589人 | 50.7% |
| 3. 日本語を交えながら話した。 | 876人 | 75.5% |
| 4. 言葉でのコミュニケーションはなく、ゲームなどで一緒に遊んだ。 | 195人 | 16.8% |
| 5. その他 | 23人 | 2.0% |

問4. 「CAMPER'S HANDBOOK」は、キャプテンと話すのに役立ちましたか？



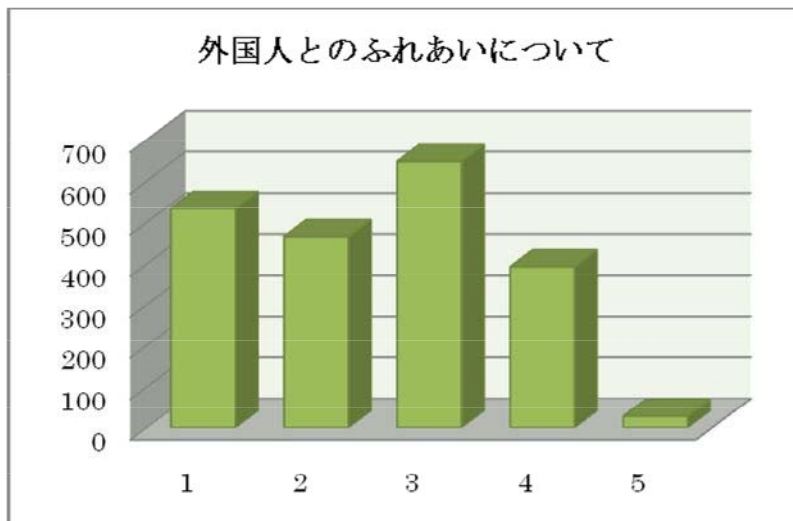
- | | | |
|-----------------|------|-------|
| 1. 役立った。 | 241人 | 20.8% |
| 2. 少し役立った。 | 490人 | 42.2% |
| 3. ほとんど役立たなかった。 | 297人 | 25.6% |
| 4. その他 | 82人 | 7.1% |

問5. 教科書で習った会話や表現のフレーズを使ってみましたか？



1. 使った。	321人	27.6%
2. 少し使った。	474人	40.8%
3. ほとんど使わなかった。	298人	25.7%
4. その他	19人	1.6%

問6. サマーキャンプで外国人とふれ合って、あなたはどんなことを感じましたか？(複数回答)



1. 外国人に親しみを感じた。(気持ちが変わりあえた)	534人	46.0%
2. 外国人について、発見したり、気づいたりすることがあった。	465人	40.1%
3. 英語がもっと話せるようになりたいと思った。	647人	55.7%
4. さまざまな国の文化に興味を持った。	393人	33.9%
5. その他	28人	2.4%

※参加生徒の自由意見（抜粋）

本年度は、日本語と英語で自由意見を書いてもらいました。

1年生

- ・ Very very interesting!
- ・ I enjoy ESC NASU very much.
- ・ Exciting
- ・ Thank you so much
- ・ 英語で話すのはとても難しかったけど楽しかった。また、外国人とふれあう機会があれば、もっと英語で話したい！
- ・ 外国人とふれあうのは大変だったけど、ジェスチャー等でコミュニケーションがとれたのでよかった。
- ・ 留学生とふれあって、自然に英語を使い、英語が好きになった。
- ・ 話がほとんど通じなかったなので、もう少し日本語も入れてほしかった。
- ・ 世界って広いなーと思った。
- ・ キャプテン達ともっとふれあう時間がほしいです。
- ・ 外国人は思っていた以上に親しみやすく、結構会話することができてよかった。
- ・ もう少しだけ、先生や大人の方が外国人さんとの会話について、私たちの手助けをしてくれると、英語も話しやすくなったと思う。

2年生

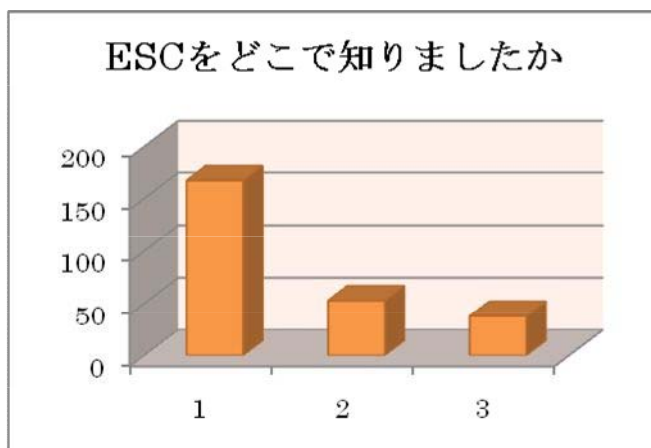
- ・ I want to communicate with foreigner again.
- ・ It's very very excited! I'll study English more. I had a nice time.
- ・ very very fun!
- ・ It was really fun. I got to talk a lot of people in English and I got to many things. I think that the food was good and the captains were nice.
- ・ I can't speak English very well. So I should study English.
- ・ Hokey Pokey was nice, but it was very tired because it was after hiking.
- ・ I was very happy. Because I can communicate with forigher.
- ・ I really enjoyed "NASU". I hope we can come back here again someday. And all of the captain has a good attitude and friendly.
- ・ 外国人との文化の違いを間近で感じられて良かったと思う。これからも英語を勉強して外国人としゃべりたい。
- ・ 外国人が知っていることがわからず、自分の伝えたいことが、うまく伝わらないこともありましたが、がんばって伝えて、やっと言っていることが理解してもらえた（言っていることが理解できた）ときは、とてもうれしかったです。
- ・ 将来、絶対に英語を話せるようになる。絶対！
- ・ 外国人の方との交流がたのしく、あっという間に終わってしまった。もっと交流したい。
- ・ 外国人は、テンションが高くて、楽しかった。またみんなに会えるといいなと思う。
- ・ 英語を選んでしっかりと自分の意見を伝えること、とても難しいし、大切なことだと思います。

《留学生アンケート》

平成22年度 ・参加留学生延べ人数 179人

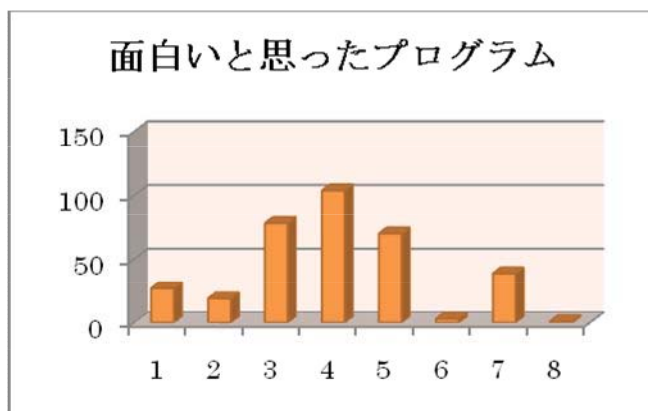
・回答数 175人（複数回参加者の回答を含む）

問1. ESCをどこで知りましたか？



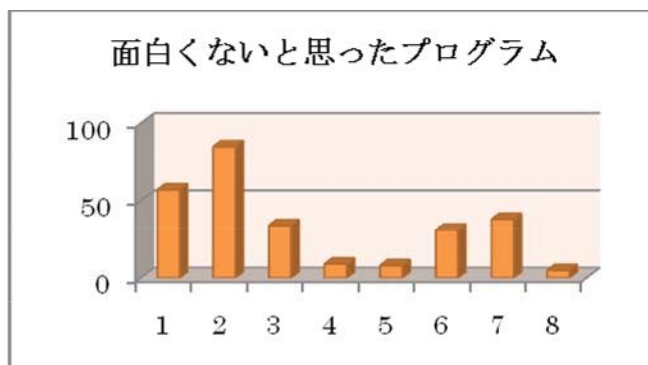
1. Posters	167人
2. Friends	53人
3. Other	38人

問2. 面白いと思ったプログラムは何ですか？（2つ選択）



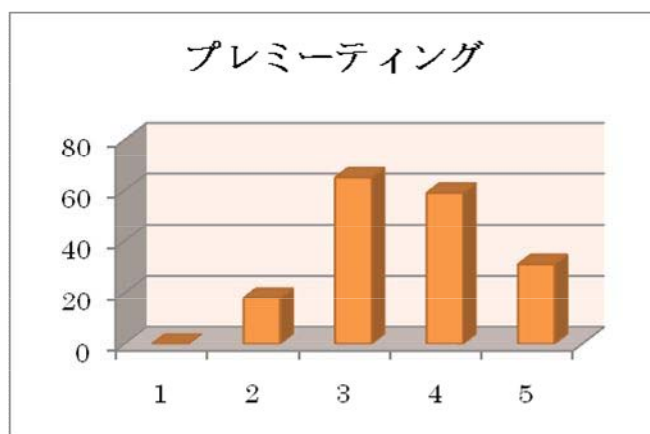
1. ICP Practice	27人
2. It's a Small World	19人
3. Hiking/Mountain/Rainy Program	78人
4. Camp Fire	104人
5. ICP Presentation	70人
6. Farewell Assembly	3人
7. Chat Room	39人
8. Other	1人

問3. 面白くないと思ったプログラムは何ですか？（2つ選択）



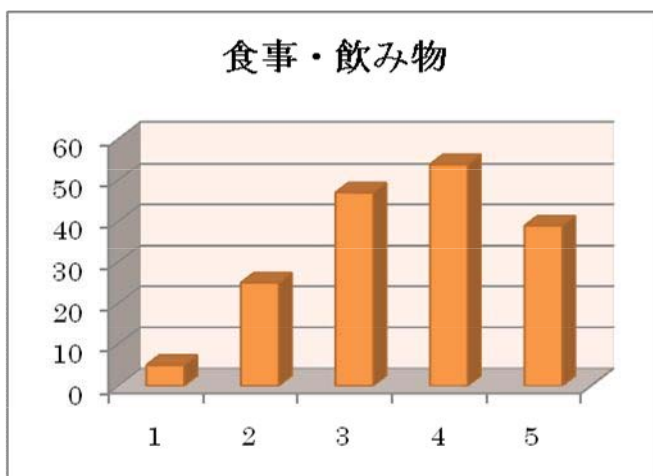
- | | |
|----------------------------------|-----|
| 1. ICP Practice | 57人 |
| 2. It's a Small World | 85人 |
| 3. Hiking/Mountain/Rainy Program | 34人 |
| 4. Camp Fire | 9人 |
| 5. ICP Presentation | 8人 |
| 6. Farewell Assembly | 31人 |
| 7. Chat Room | 38人 |
| 8. Other | 5人 |

問4. プレミーティングについて



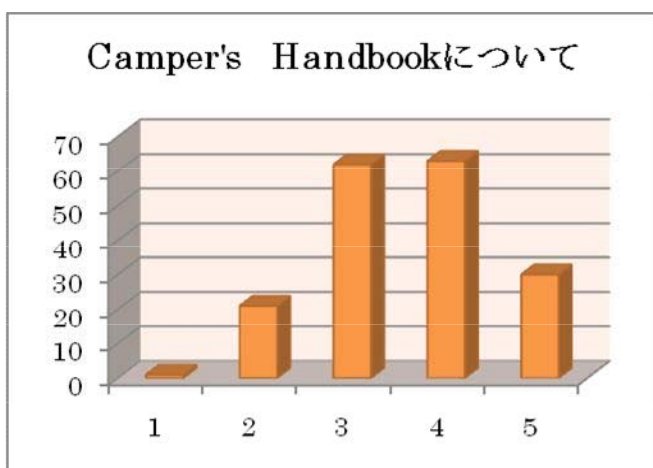
- | | |
|-----------------|-----|
| 1. Poor | 0人 |
| 2. Satisfactory | 18人 |
| 3. Good | 65人 |
| 4. Very Good | 59人 |
| 5. Excellent | 31人 |

問5. 食事・飲み物について



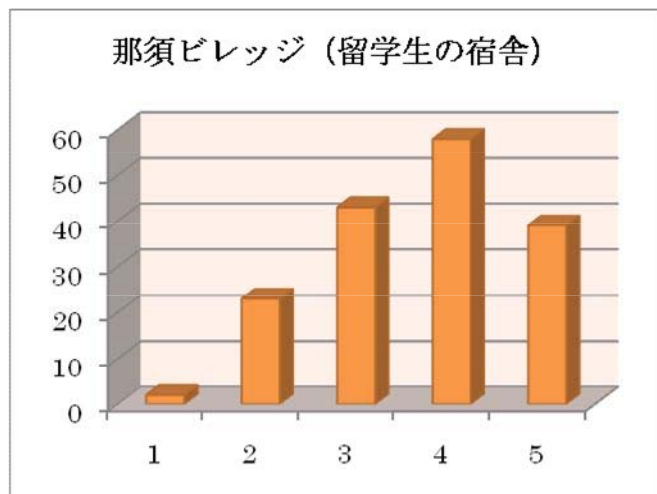
- | | |
|-----------------|-----|
| 1. Poor | 5人 |
| 2. Satisfactory | 25人 |
| 3. Good | 47人 |
| 4. Very Good | 54人 |
| 5. Excellent | 39人 |

問6. Camper's Handbook について



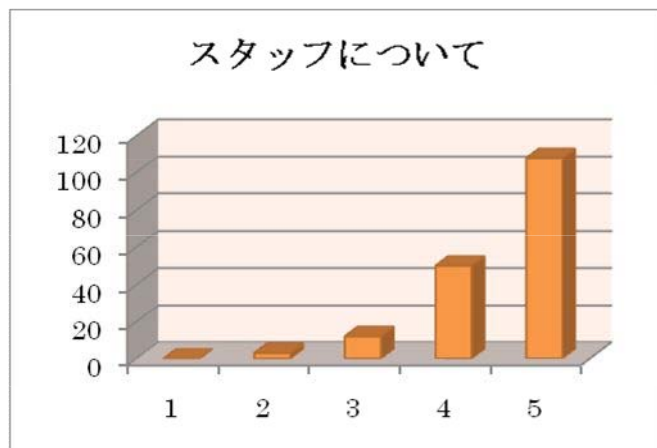
- | | |
|-----------------|-----|
| 1. Poor | 1人 |
| 2. Satisfactory | 21人 |
| 3. Good | 62人 |
| 4. Very Good | 63人 |
| 5. Excellent | 30人 |

問7. 那須ビレッジ (留学生の宿舎) について



1. Poor	2人
2. Satisfactory	23人
3. Good	43人
4. Very Good	58人
5. Excellent	39人

問8. スタッフについて



1. Poor	0人
2. Satisfactory	3人
3. Good	12人
4. Very Good	50人
5. Excellent	108人

※留学生の自由意見（抜粋）

- ・キャンプファイヤーがとてもよかった。生徒が初めて自ら参加していたと思う。
- ・海外の文化の違いを生徒に教えるために参加したのでICPが一番楽しかった。
- ・キャンプファイヤーでスタッフと生徒と一緒にアクティビティをしたのが楽しかった。ハイキングは眺めがよくいい経験になった。
- ・チャットルームはみんなでゲームをしたりして楽しかった。ハイキングは植物の名前を教えたりしながら歩いて楽しかった。
- ・中には単調すぎるアクティビティがあったので、もう少し創意工夫をするべき。
- ・It's a small worldはもっと絵や写真をうまく使ったほうがいい。
- ・学校の先生がもっと生徒の傍にいた方がいい。
- ・先生たちももっと参加できたらいいと思う。
- ・新しい文化を教えるのは楽しかった。
- ・とても楽しかった！また来たい！！
- ・本当に楽しかった。日本の子どもたちと独自に文化を共有できてよかった！！
- ・英語を習い始めて3カ月の生徒と英語で話すのは本当に大変。日本語で話すのは禁止されていたけど、日本語で説明した方が伝わると思う。
- ・生徒の英語レベルは会話ができるほどではない。もっと会話ができるようになってから参加したほうが効果は高まると思う。
- ・英語だけで会話するというルールはこのキャンプでは難しい。
- ・英語で説明し、日本語でも説明することを許可して欲しい。生徒にもキャプテンにも、会話が出れない状況は、ストレスが溜まる。
- ・異文化交流を中心に行ったらいいと思う。
- ・3泊ぐらいあるともっと楽しかったと思う！
- ・本当にいい時間がすごせた。生徒と一緒に私も楽しかったし、生徒もそうであったことを願いたい。

1.2. 成果及び課題

イングリッシュ・サマーキャンプ in 那須（ESC那須）は今年で9回目を迎えた。協力大学・中学校・日本児童教育振興財団・日本旅行・しらかば荘のスタッフその他多数の方々に協力をいただき、充実したプログラムを実施できた。

今年度は1,197名の生徒が参加し、教室を離れた自然の中で留学生の活きた英語に触れることは、生徒にとって有意義な経験になったようである。

留学生との交流の重視～「一人一言でも英語を使う」ための取り組み

成 果

今回は、ESCの目的の一つである、「英語が外国の人々とのコミュニケーション手段であることに気づく」ため、また「英語で話すことの楽しさを体感」してもらうために、一人一言でも英語を使ってもらえる機会を作ることに力を入れた。

実際の取り組みとしては、毎年行っているIt's a small worldの実施において、一言でも英語を使ってもらえるような環境を作ったことである。これは毎年、班ごとに自分のチームのキャプテンを他のチームに紹介するという形式で行っており、この方式自体の変更はしていないが、発表までの過程で行うキャプテンへの質問について、共通のインタビューシートを使用し、全員が一つ質問するということを徹底した。また、ESCの感想アンケートでの英語記入欄を加え、感想も英語でチャレンジしてもらう機会を作ることにより、留学生との会話の増加を図った。

結果として、アンケート結果を見てみると、「問3. あなたはどのようにキャプテンとコミュニケーションをとりましたか？」との問いに、42%の生徒が「英語で話した」と回答している。半数には及ばなかったが、昨年度（38.8%）よりは増加した結果となった。実際にアンケート自由意見欄を見ても、「英語を話した」ことからの感想が多くみられた。またそこから、今後の英語への意欲につながっていくような感想が見られたことも、大きな成果といえることができる。

課 題

上記の成果を踏まえ、今後、より「英語を使う」機会を増やしていくためにできることとしては、二点ある。一点目は、実施前に「英語を使う」ための準備を行っていく必要がある。学年によって、あるいは個人によっても、英語の学力の状況は異なっている。それに対応していくべく、ESC実施前に、使用できる会話文等を載せたハンドブックを各生徒に配布している。しかし現状では事前に目を通してくる生徒は多くないようである。生徒が自発的に英語を使って臨めるよう、実施前のバックアップは重要である。また、事前学習としてハンドブックを生かしていけるよう、ハンドブックの内容を見直していくこともまた、必要となる。

二点目は、プログラムの見直しを行っていくことである。英語を使う機会を増やすためにも、留学生との交流の時間を増やしていけるような配慮が必要となってくる。東京を離れ、自然豊かな那須にいったからこそできる自然体験を行いつつ、より留学生との交流を図りやすいプログラムを検討していきたい。

【継続交流】

1.3. 継続交流

ESC那須での成果を継続していくため、希望する中学校が留学生との継続交流を行うことができる。

授業時間の制約などがあり継続交流をなかなかできない現状があるが、留学生・生徒ともに交流を望む意見も多くみられたので、今後も、継続交流を充実させることが望まれる。

今年度実績

○文化祭での展示物見学

平成22年10月30日 留学生11名参加

- ・文化祭へ招き、一緒に展示物見学を行った。書道展示や、京都奈良への修学旅行の感想掲示などもあり、留学生から生徒への質問も多く飛び交っていた。

これまでの実績（一部抜粋）

○部活動（茶道部）への参加（21年度実施）

平成21年12月10日～11日 参加留学生のべ9名

- ・茶道部の活動に招き、茶道の体験を行い日本の文化を体感していただいた。
- ・ESC那須の本番では、留学生から自国の文化を教えてもらい、継続交流では、部活動を通して日本の文化を体感してもらうことができ、双方の文化を理解する場を持つことができた。

○文化祭でのICPの発表とそれに向けての練習（18年度実施）

平成18年9月8日～10月28日（毎週金曜日練習）

参加留学生のべ65名

- ・文化祭での発表を目指して、各留学生の母国の生活や文化について学び、歌や踊りの指導を受けた。
- ・文化祭当日は、交流で学んだことをまとめ、留学生の母国紹介の展示発表と、舞台において各国の文化紹介を留学生とともにいった。

○学芸会での展示発表への取り組み（18年度実施）

平成18年10月3日 参加留学生1名

- ・学芸会での展示発表を目指して、留学生の母国の社会生活や文化について聞き、国際理解を深めた。

○総合的な学習の時間での交流（16年度実施）

平成16年11月6日 参加留学生1名

- ・ESC那須では外国の文化や歌などを教えていただいたので、今回は日本の文化について触れていただいた。
- ・地元の高齢者（豊寿会）の方から折り紙を教わり感想を聞いた。